

山都町の名木【第7回】

新藤造化天神のイチイガシ群

〔樹種〕ブナ科ナラ属

〔指定等〕山都町指定天然記念物（昭和53年5月19日指定）

〔管理者〕新藤地区

矢部地区新藤集落の天神社にある高木のイチイガシ群。推定樹齢は、約300年以上と伝わります。「造化天神璽」と刻まれた石塔の傍に位置するものは、高さ約30m、幹周り約6.6mになります。イチイガシは、カシ類のなかで最も寿命が長く巨木になる常緑樹で、関東南部から九州一帯に分布しています。一般的に、加工しやすく形質も良好な材木となることから、道具の柄、建築材など古来より様々な用途に利用されています。新藤では、今から70～80年前頃までどんぐりを団子の粉や子どもの遊びなどに使用していたようです。

この天神社は、江戸時代前期の1669年（寛文9）の地誌にも紹介されている神社で、山都町では珍しく正月15日に「竹はしらかし」という行事が催されています。これは、境内で薪や竹を燃やし、火の付いた竹を石や地面に打ち付けパンパンと音を鳴らし“竹を走らかす”ものです。この由来は、新藤の民家で火災が多く起こる原因として茅葺屋根に使用された竹が音を立てて燃える様子を“天神さんが竹を走らかして喜んでいる”と考えられたことから、火伏せの願いを込めて行われる行事と伝わります。昔は、旧暦の霜月15日でしたが、現在では1月15日に変更されています。

このイチイガシは、神社の鎮守の森として、また地域の生活や行事との関わりの深い大事な樹木として継承されてきました。

〔参考史料・文献等〕
・北嶋雪山『國郡一統志』青潮社
・1996 平井 信二『木の百科—解説編—』朝倉書店
・新藤地区 坂本巖さんにご協力をいただきました。



唐辛子の生産に取り組みませんか

唐辛子の年間消費量は国内で1万トン、そのうち98%が中国からの輸入品で国産品はわずか2%（200t）しかありません。近年の食品問題から国内香辛料メーカーは中国産を敬遠しており、国産唐辛子が注目されています。

山都町では平成27年度より農家、JA上益城、健康食品などを取り扱うエヴァウェイ株式会社が共同で唐辛子の栽培に取り組みました。

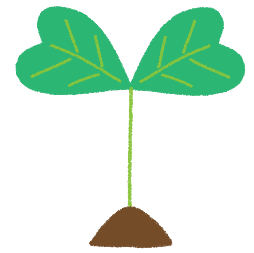
唐辛子のメリットは、軽量で負担も少なく高齢者でも簡単に取り組めることです。栽培も比較的簡単でピーマンの栽培経験があればすぐに取り組み、鳥獣害の心配もありません。企業と農家の連携で始まった今回の事業ですが、安全、安心な国産の唐辛子を求める企業と耕作放棄地等の農地を何とかしようと模索していたJAや関係機関の思惑がマッチしたこの取り組みをきっかけに山都町の特産物として大きく発展させたいと考えています。平成27年度は、22世帯で2万8千本の苗を植え付け、8月中旬から赤く熟した唐辛子を軸付きで収穫します。

栽培をご希望の方は、JA上益城第3営農センター（73-1250）へお問い合わせください。



「統計の日」を記念して、農林水産省が実施する農林水産統計調査に永年にわたってご協力いただいた方々に対し、その功績を称え農林水産大臣から感謝状が贈られました。
今年山都町からは、高橋伸也さん、高森雄二さんが農業経営統計調査に永年協力されたことにより受賞されましたのでご紹介いたします。

農林水産大臣から感謝状が贈られました



◎「統計の日」とは

10月18日は、昭和48年7月の閣議了解により、「統計の日」と定められました。

これは、統計の重要性について、国民の皆様に関心と理解をもっていただき、統計調査に対する一層の協力を推進することを目的に設けられたものです。

この10月18日は、我が国における近代産業統計の源である「府県物産表」に関する太政官令が布告された明治3年9月24日を、太陽暦に換算した日が10月18日だったことによります。



高橋 伸也さん（20年）



高森 雄二さん（15年）

熊本県青少年育成県民会議表彰



11月28日に行われました「熊本県青少年健全育成県民フォーラム」において、橋本早苗さんが青少年育成の部（個人）で表彰を受けられました。
この賞は青少年の健全育成に関し優れた活動を行っている青少年育成者等に贈られるものです。橋本さんは矢部地区青少年健全育成町民会議発足時から中心人物として活動に尽力され、現在も一貫して活動を続けられており、また、子ども達と共に茶道を通じて高齢者へのボランティア活動を行われるなど町の青少年育成に貢献されています。

